



子ども達への事前説明資料の例 (パワーポイント資料)

洞川を調べよう

## 洞川を見てみよう



調査に向かう前に全員集合



川での調査

## 6. 専門家を学校に招いて授業を受ける

川を診断する道具として水環境健全性指標を活用することができます。小学校の授業に調査の経験者や水環境に詳しい方（地域で活動する方々など）を招き、川の昔の状態や川の生き物などについて、いろいろなお話を聞いてみよう。出前授業をお願いするには、川のこと詳しい地元のNPOや県・市町村の環境部局の方、河川事務所の方に連絡してみると良いでしょう。



地元の川に詳しい専門家による授業



透視度計を見てみよう



## 7. 高等学校での活動の一環として利用

高等学校の授業，生物クラブなどの活動の一環として川を調査する際に，水環境健全性指標を使ってみよう。そして，地域の川の特徴を広い観点から把握してみましよう。それらの活動の成果は，学校のHPなどで公表することもできるでしょう。



調査地点から見た河川と採水の状況



透視度と水温の測定

## 第4章 情報（調査結果）を発信してみよう

### 1. 啓発活動への活用

普段活動している川に看板などを設置して、水環境健全性指標の調査位置であることを明らかにし水環境について定期的な調査を行っている旨を示すことにより、地域の水環境意識の啓発に役に立ちます。

さらに、調査した結果を周辺住民の方々にお知らせするなど、住民意識の啓発に活用することも考えられます。

このように、水環境健全性指標を活用することにより、地域の水環境を考えるきっかけをつくることができるでしょう。



啓発のための看板を設置



調査地点の掲示・標識貼り

## 2. 調査結果をネットで公表

大学の研究室の皆さんで調査を行った場合など、調査結果を様々に工夫して加工・分析して研究の一環として、その成果を公表することも考えられます。

次のように調査結果を地点ごとに見やすくかつ地点の詳細データや経年傾向などを見ることができるシステムを構築し研究の一環として公表することもできます。

以下に示すのは「Yamanashi みずネット」<sup>注)</sup>の構築したシステムの例です。同システムでは表記方法が参考になるだけでなく、観測データを観測者自らがコメントを付けて登録できるシステム構成になっています。観測生データの閲覧もできます。

このような水環境データを通じた双方向のやりとりは、調査参加者のモチベーションを一層高めます。

注) <http://cosmos.js.yamanashi.ac.jp/mizuNet/modules/mizuDB2/>

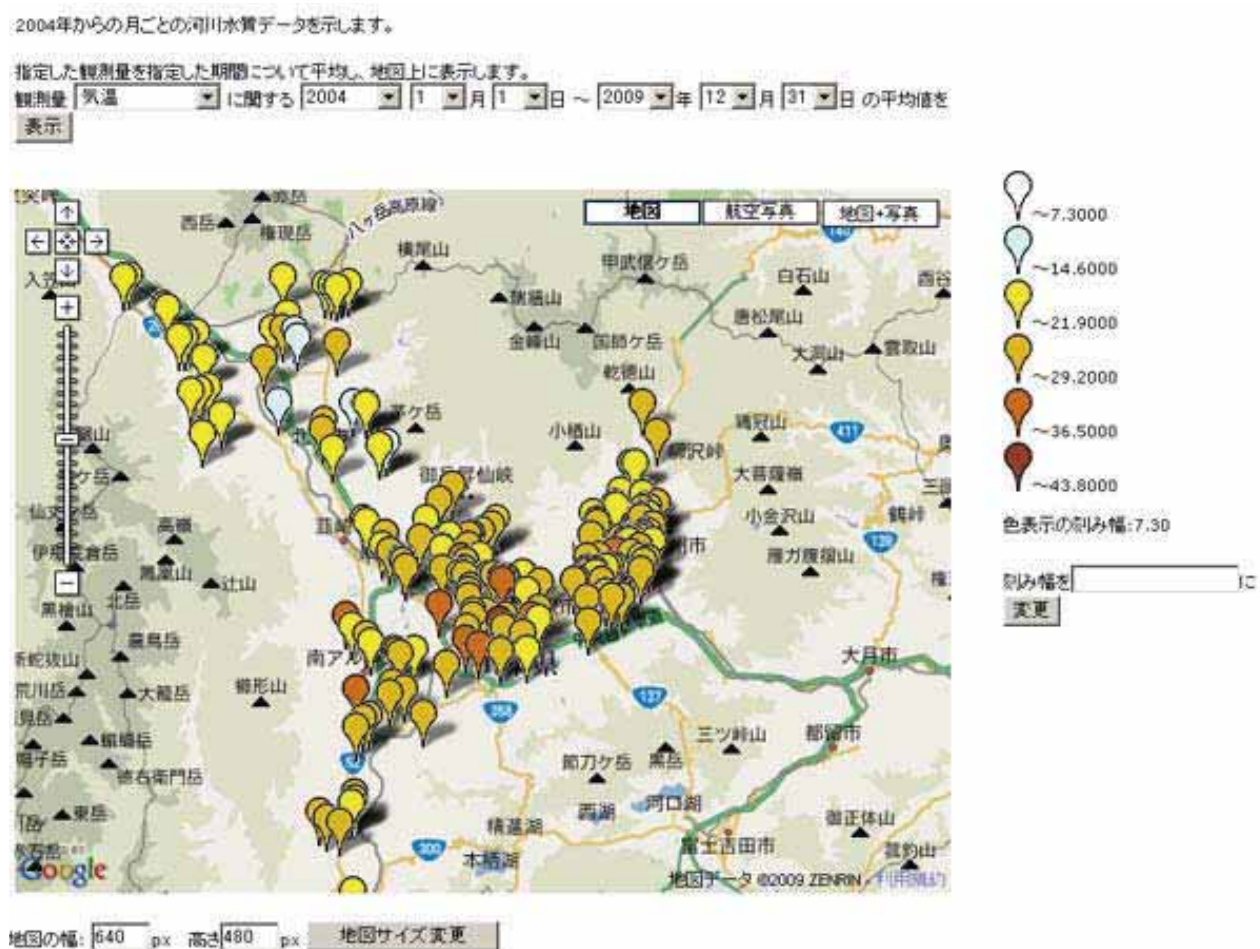


図 1 1 調査地点と調査結果の概要表示



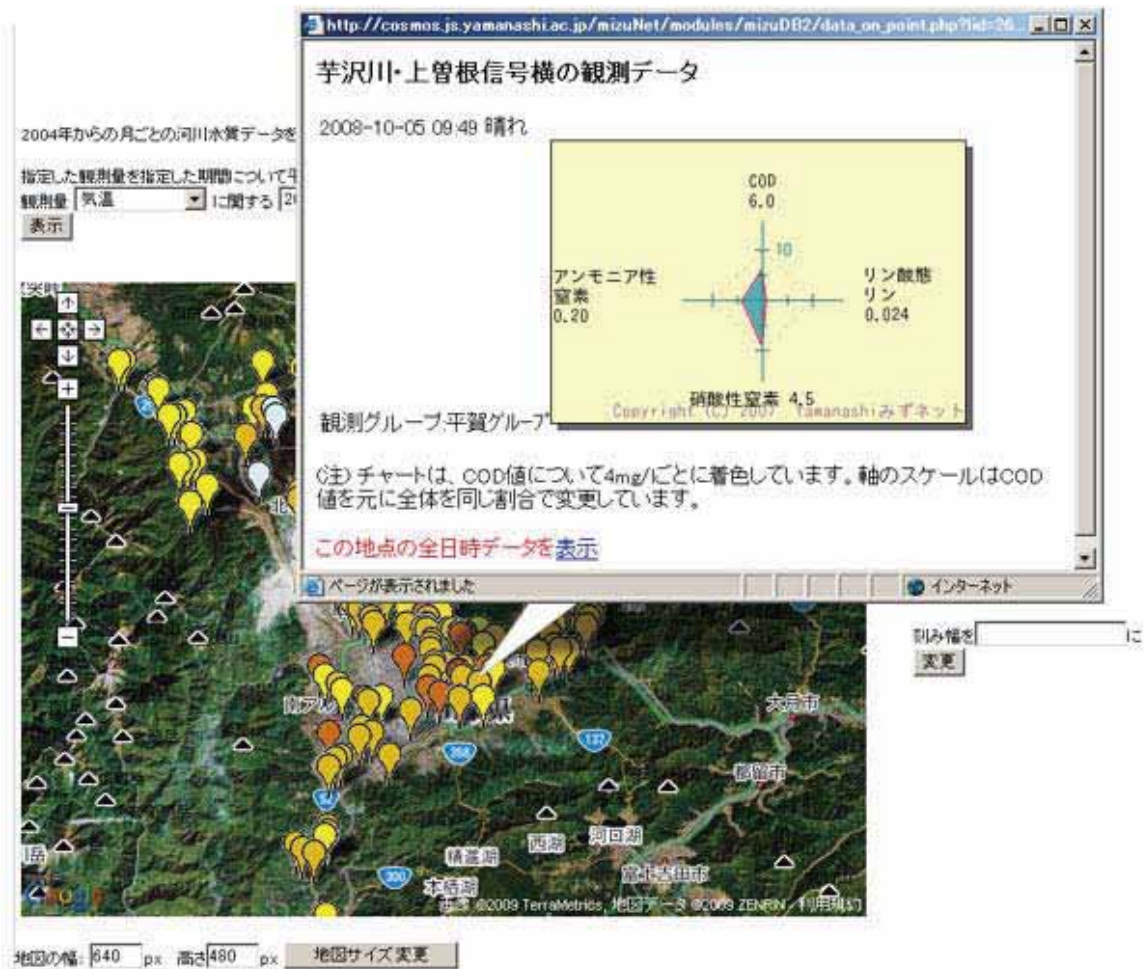


図 1 2 調査結果の詳細表示

表 3 公表値と調査結果の比較

公表されているデータと私たちの調査結果の比較 (COD)								
地点・河川名	山梨県公表データ(8月)					調査結果(8月)	調査結果(8月)	
	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度		平成11年	平成12年
釜無川・信玄橋(みゆき橋)	2.6	1.9	2.0	2.2	2.1	2.2	2.6	5.1
釜無川・三郡西橋	3.1	2.1	2.3	2.1	1.8	2.3	2.9	4.2
富士川・富士橋	4.4	3.3	3.5	3.5	3.1	3.6	4.6	4.7
富士川・南部橋	3.0	1.5	1.4	2.0	2.1	2.0	4.0	4.4
塩川・塩川橋(駒井橋)	3.5	2.4	2.8	2.6	2.4	2.7		2.2
笛吹川・亀甲橋(桑戸橋)	2.2	2.5	1.7	1.4	1.8	1.9	2.8	8.3
笛吹川・鶺鴒橋	2.9	2.7	2.5	2.4	2.2	2.5	3.0	4.9
笛吹川・桃林橋	5.4	3.8	4.3	3.9	2.9	4.1	7.2	5.7
笛吹川・三郡東橋	3.4	3.5	4.2	4.3	3.4	3.8	7.2	5.0
滝沢川・新大橋(楯形大橋)	4.4	5.7	3.6	2.9	3.4	4.0		5.5
重川・重川橋	3.8	3.6	3.6	3.5	2.7	3.4	5.9	6.4
日川・日川橋	3.7	1.7	2.0	2.2	1.9	2.3	6.8	5.1
平等川流末(新恵比寿橋)	2.5	3.6	3.6	4.8	4.1	3.7	8.1	5.2
濁川・濁川橋(新油川橋)	6.6	7.2	6.1	6.3	5.4	6.3	16.9	11.7

### 3. 調査活動を広報する

皆さんが取り組んでいる調査活動の内容を市役所の環境担当部署や地元の自治会に報告して市役所の展示室で公表することや自治会誌や自治会の掲示ボードに活動の成果を公開することが考えられます。

このように、調査結果を行政に提示（提案）したり住民の方に提示したりすることができます。



市役所での調査結果の公開



学区の交流会での発表

## 4. 取り組みを企画提案する

自分達が活動している身近な川を対象として、第3章で示した「調査と調査結果の活用」により現状の把握（いいところの発見、課題の発見）を行っていきましょう。そして、①地域の良いところを守っていくための取り組み、②課題を改善するための取り組みについて、調査を実施した人以外の地域に住む人々も交えて検討していきましょう。

### ①地域の良いところを守っていくための取り組み

- ・他のNPOと合同の調査を行う（調査の規模を拡大し、共通認識をもてる方を増やす）
- ・調査団体相互で情報交換を密に行う（情報を共有し、認識の共有を図る）
- ・情報発信を積極的に行う（他団体との交流等） 等

### ②課題を改善するための取り組み

- ・市町村の環境部局、河川部局への情報提供（施策を講じるための基礎情報の提示）
- ・新たな改善行動の提案と可能な対策の実施（住民・NPO等のできる対策の提示と実施）
- ・情報発信を積極的に行う（他団体との交流等） 等

以上の中で行政や他のNPO等への情報発信や他団体との交流は、NPOの活動のモチベーションを高めるものでもあります。これらについては次項で説明します。

## 5. 調査結果を使って他の団体と交流する

### （1）イベントを通じての交流

調査の結果を市町村が主催するイベントで発表したり、NPO同士の交流会を通じて情報を発信したりするなどが考えられます。以下にイベントの事例を示します。

横浜市環境創造局と同市教育委員会の共催により、市内児童生徒の環境活動を通じた交流の場「こどもエコフォーラム」を開催しています（平成17年度より開催）。参加者および作品を募集し、小学校での環境活動の成果をこの場で発表します。

発表形式：ステージ発表（プレゼンテーション、劇、歌、合奏、詩、映像作品など）  
ポスター掲示（会場の展示スペースに掲示）





出典：横浜市HPより引用

## (2) ブログ等を使った交流

水環境について様々な活動をしている学校、住民・NPO等の団体の方々は、「他の町ではどのようにやっているのだろう」、「他の団体はどのように思っているのだろう」、「〇〇についてもっと詳しく知りたい」と思うことがあるかもしれません。

近年ではインターネットが普及しており、これをうまく活用することによって、他の団体との情報交換や交流することができます。

例えば、近年普及しているブログを使って、その川について見識を広めたり、調査結果を公表して、他の人と意見交換したりすることも考えられます。

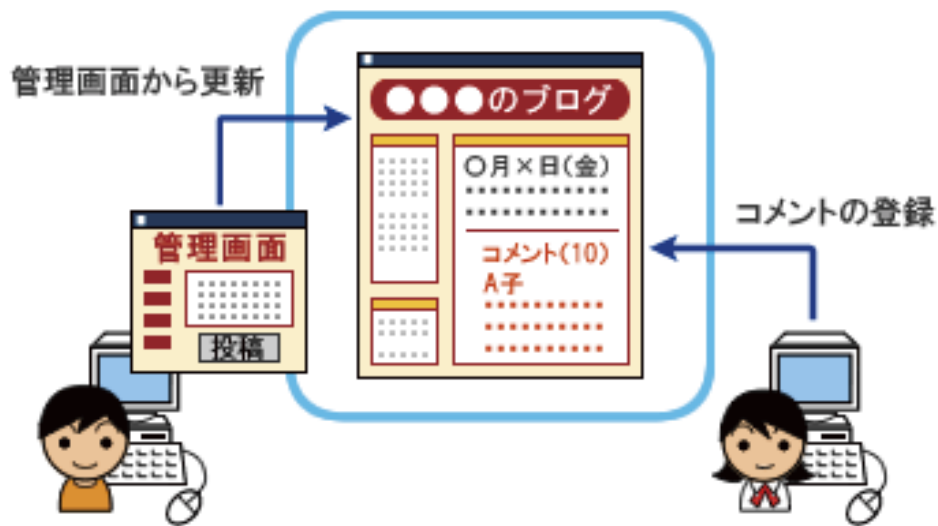


図13 ブログの仕組み

出典：総務省ホームページ ([http://www.soumu.go.jp/joho\\_tsusin/security/kiso/k01\\_blog.htm](http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/security/kiso/k01_blog.htm))

例えば、「美しい山形・最上川フォーラム」では、体験等を地図に自由に書き込めるページ（最上川丸ごと体験ミュージアム）が運営されています。水環境健全性指標による調査結果を公開して、情報交換や交流が促進されることも考えられます。

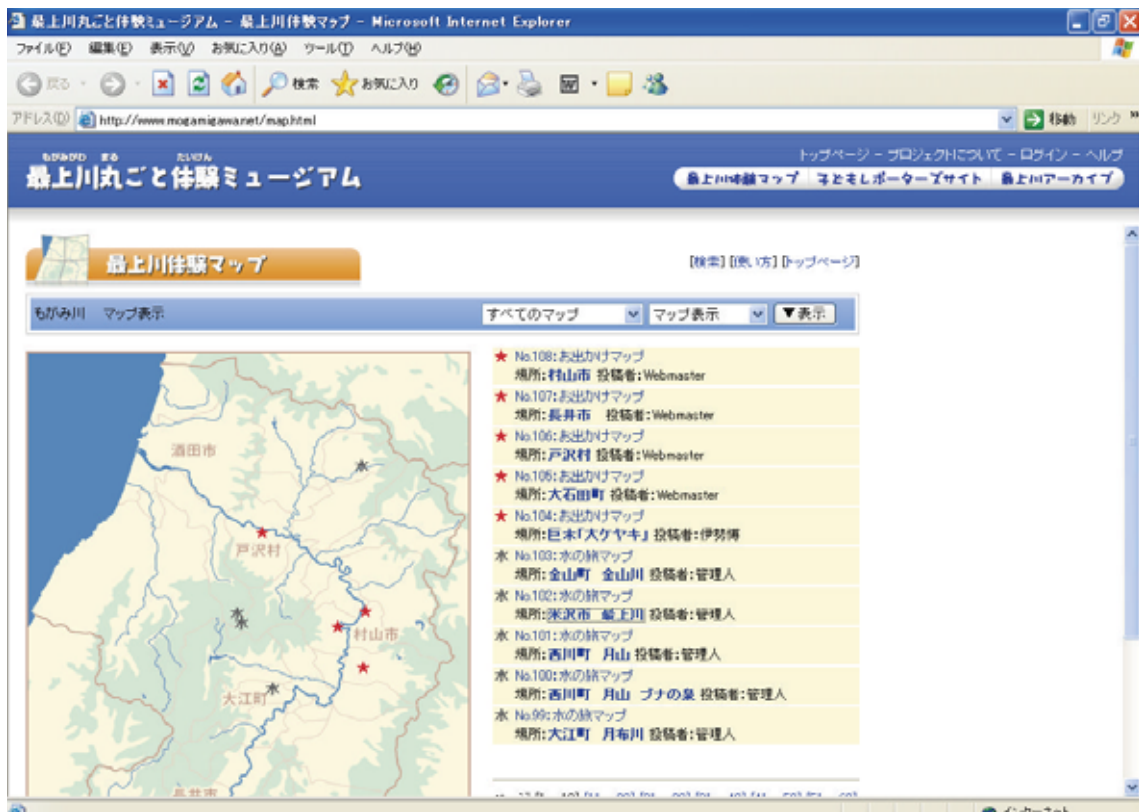


図14 ブログの例



## <参考情報>

(近くのNPOやその活動内容を知るための情報)

①環境省「地球環境パートナーシッププラザ・環境らしんばん」

<http://plaza.geic.or.jp/>

②(独)環境再生保全機構「環境 NGO 総覧」

<http://www.erca.go.jp/jfge/NGO/html/main.php>

(調査情報を補足するための情報)

③国土交通省「水文・水質データベース」

<http://www1.river.go.jp/>

④(独)国立環境研究所 HP「環境数値データベース」

<http://www.nies.go.jp/igreen/index.html>

⑤国土交通省「河川環境データベース」(河川水辺の国勢調査)

<http://www3.river.go.jp/>

⑥環境省「生物多様性情報システム」

<http://www.biodic.go.jp/J-IBIS.html>

⑦環境省「全国水生生物調査」

<http://www2.env.go.jp/water/mizu-site/mizu/suisei/>

⑧環境省「川の生きものを調べよう」

<http://www.env.go.jp/kids/water.html>

⑨環境省、国土交通省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省「健全な水循環系構築に向けて」

<http://www.mlit.go.jp/tochimizushigen/mizsei/junkan/index.html>

(調査の安全のための情報)

⑩「水辺の安全ハンドブック 川を知る。川を楽しむ」(財)河川環境管理財団

[http://www.kasen.or.jp/public\\_html/index.html](http://www.kasen.or.jp/public_html/index.html)

(様々な調査結果を公表しているNPO等の団体についての情報)

⑪びわこ豊穰の郷

<http://www.lake-biwa.net/akanoi/>

⑫yamanashi みずネット

<http://cosmos.js.yamanashi.ac.jp/mizuNet/modules/mizuDB2/>

⑬横須賀「水と環境」研究会

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/katsudou/index.html> ※関連HP

⑭淀川水系の水質を調べる会

<http://www.yodogawa.org/hp/syokai/kai.html>

(情報公開の方法に関する情報)

⑮ブログについて

[http://www.soumu.go.jp/joho\\_tsusin/security/kiso/k01\\_blog.htm](http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/security/kiso/k01_blog.htm)

